EPSON

Endeavor

LX1000

ユーザーズマニュアル

Turbolinux FUJI Basic

目　次

はじめに

使い始めるまでの準備

システムの拡張

BIOSの設定

付録

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

記号	意味
警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

記号	意味
制限	**制限事項です。** 機能または操作上の制限事項を記載しています。
参考	**参考事項です。** 覚えておくと便利なことを記載しています。
『　』	**本書とは別のマニュアルを示します。** 例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。
(参照マーク)	**参照ページを示します。**
1 2	**操作手順です。** ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
[Ctrl]	**[　]で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。** [↵]はEnterキーを表します。また、[N]は[N み]のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
[Ctrl]+[Z]	**＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。** この例では、[Ctrl]を押したまま[Z]を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

表記	名称
HDD	ハードディスクドライブ
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

使い始めるまでの準備

本機の各部の名称と動き、接続方法について説明します。

ご使用前の確認事項

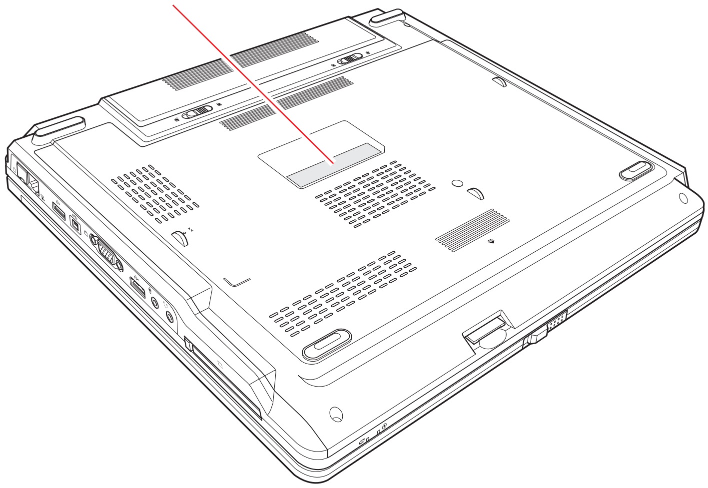
貼付シールの確認

本機には、製品情報が記載された次のシールが貼られています。本機をご使用の前に、シールが貼られていることを確認してください。シールは絶対にはがさないでください。

- お問い合わせ情報シール

  お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

  お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。



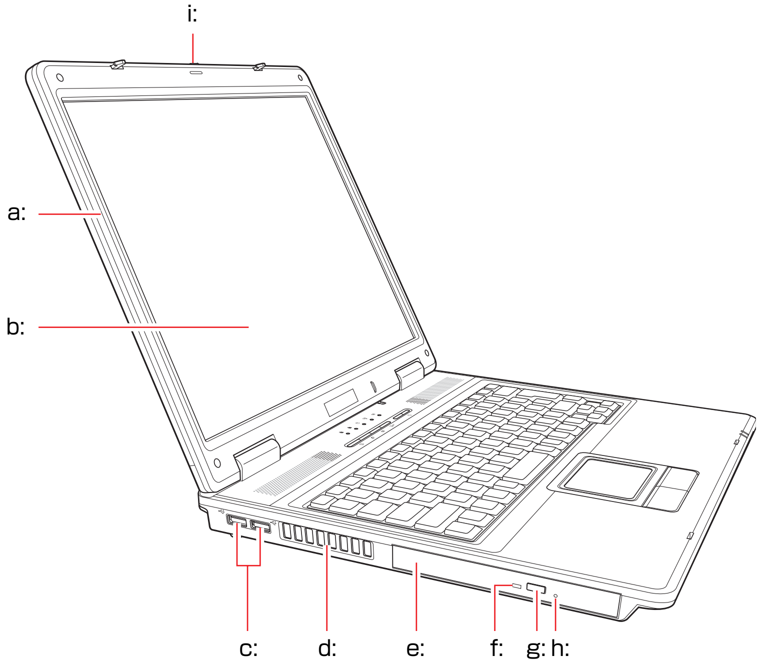
サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

各部の名称と働き

▶正面・左側面



a: **LCDユニット**
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

b: **LCD画面**
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: **USBコネクタ**
USB対応機器を接続します。

d: **通風孔**
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

e: **光ディスクドライブ**
CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みを行います。

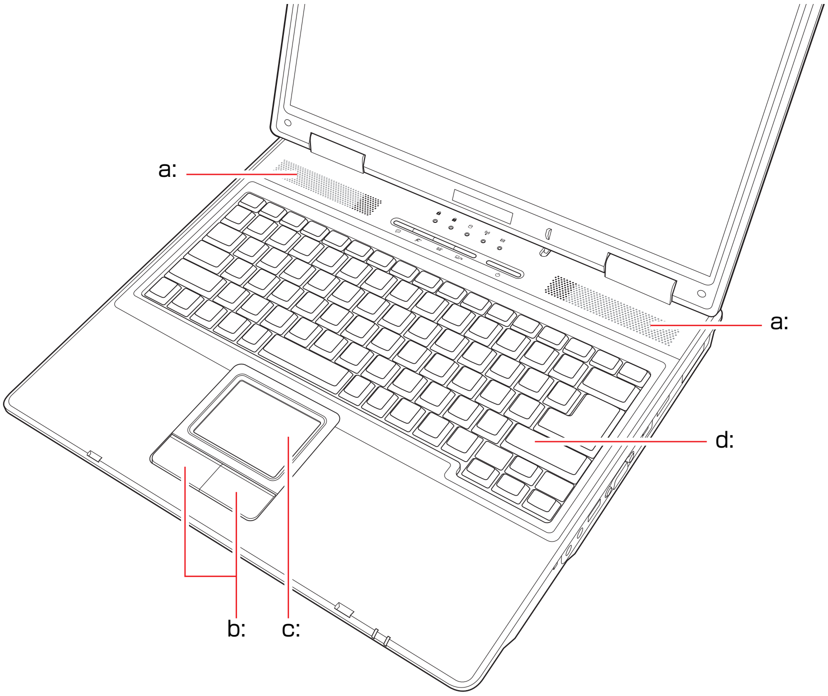
f: **光ディスクドライブアクセスランプ**
メディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

g: **イジェクトボタン**
光ディスクドライブのディスクトレイを開けるときに押します。

h: **イジェクトホール**
光ディスクドライブのディスクトレイが開かなくなった場合に使用します。

i: **LCDラッチ**
LCDユニットを開くときにスライドします。

タッチパッド／キーボード



a: 内蔵ステレオスピーカ
警告音（ビープ音）や音声などを鳴らします。

b: クリックボタン
マウスの左右ボタンに相当します。

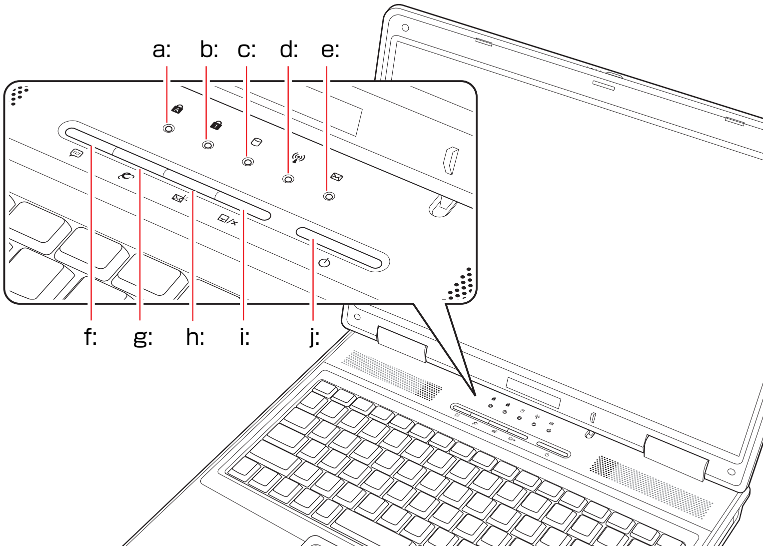
c: タッチパッド
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

d: キーボード
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

制限

Linux では、Fn ＋ F1 〜 F12 の機能は使用できません。

インスタントキー／ステータス表示ランプ



a: Caps Lockランプ
Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、アルファベットの大文字を入力することができます。

b: NumLockランプ
NumLockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

c: アクセスランプ
HDDや光ディスクドライブアクセス中に緑色に点灯します。

d: 無線LAN状態ランプ
無線LANがONのときに点灯します。
（Linuxでは動作しません）

e: メール着信ランプ
「Outlook Express」または「Outlook」使用時に、受信トレイに未開封メールがあると緑色に点灯します。
（Linuxでは動作しません）

f: インフォメーションキー
インフォメーションメニューを起動します。
（Linuxでは動作しません）

g: インターネットキー
「Internet Explorer」を起動します。
（Linuxでは動作しません）

h: メールキー
「Outlook Express」を起動します。
（Linuxでは動作しません）

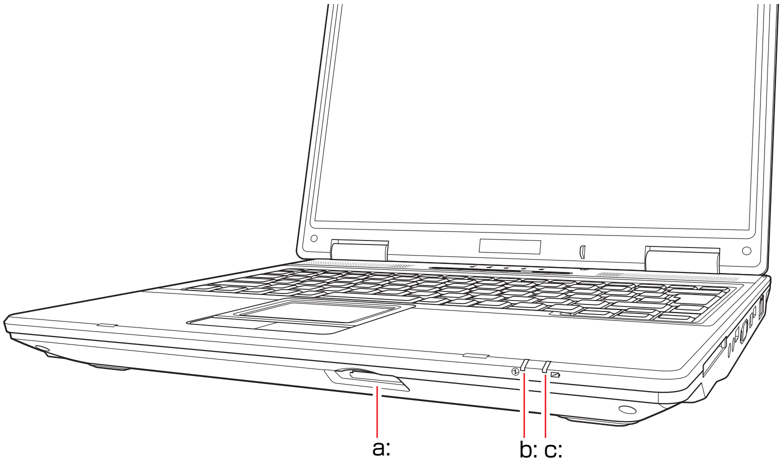
i: タッチパッドキー /x
タッチパッドのON/OFFを切り替えます。キーを押すたびに、ON/OFFが切り替わります。
（Linuxでは動作しません）

j: 電源スイッチ
本機の電源を入れます。
電源を切るには、Linux上から行います。

制限

アクセスランプが点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

前面

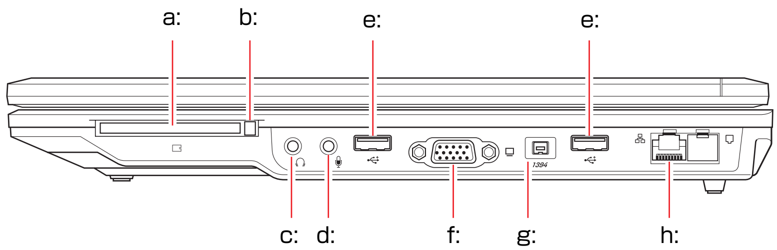


a: メモリカードスロット MMC.SD.MS/PRO
メモリカードの読み込みや書き込みなどを行います。
（Linuxでは動作しません）

b: 電源ランプ
電源状態を示します。

c: バッテリ充電ランプ
バッテリの充電状態を示します。
オレンジ色点灯：充電中
消　灯：満充電

右側面



a: PCカードスロット
PC Card Standard 規格準拠のPCカードをセットします。
(Linuxでは動作しません)

b: PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

c: ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカ、ヘッドホンなどを接続します。

d: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

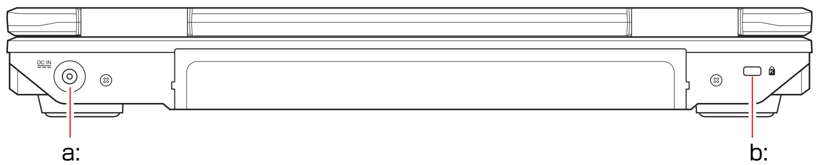
e: USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

f: VGAコネクタ
外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

g: IEEE1394コネクタ *1394*
IEEE1394 機器を接続します（4 ピン）。

h: LANコネクタ
ネットワークと接続します。

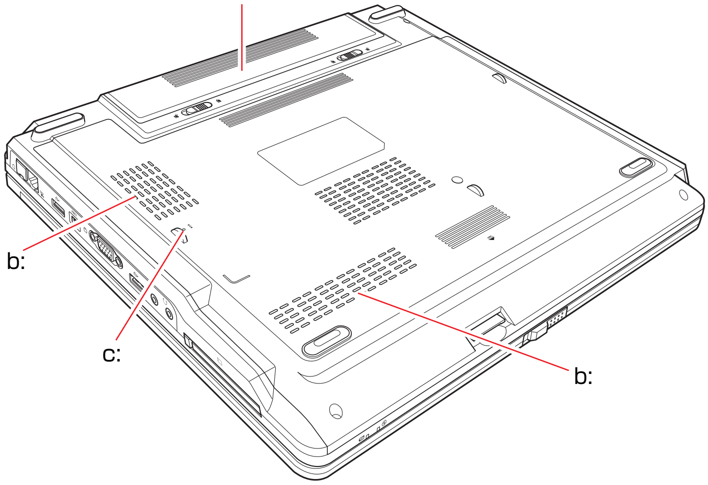
背面



a: ACアダプタコネクタ DC IN
付属のACアダプタを接続します。

b: セキュリティロックスロット
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

▶底面



a: **バッテリパック**
付属のバッテリパックを装着します。

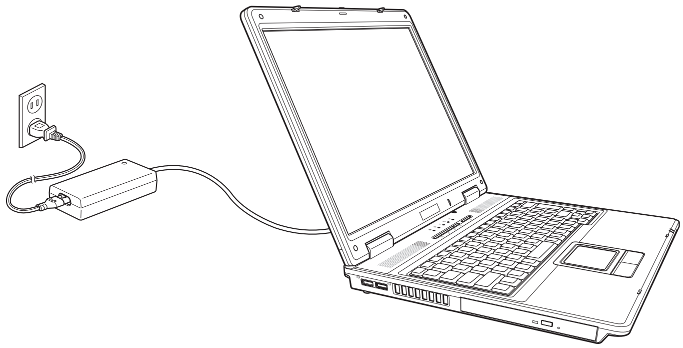
b: **通風孔**
コンピュータ内部に外気を取り入れます。

c: **リセットホール▶O◀**
コンピュータを強制終了させるときに使用します。

*本書中の本機イラストは、バッテリパックに標準バッテリ（2400mAh）を搭載したモデルを使用しています。

コンピュータの設置

本機を使用できる状態にするために、バッテリパックを装着したり、ACアダプタを接続したりする手順を説明します。



設置における注意

注意

- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

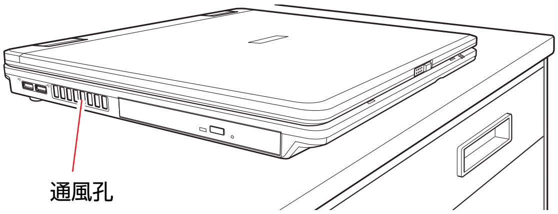
注意

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置する

1　本機を設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。

側面の通風孔をふさがないようにしてください。

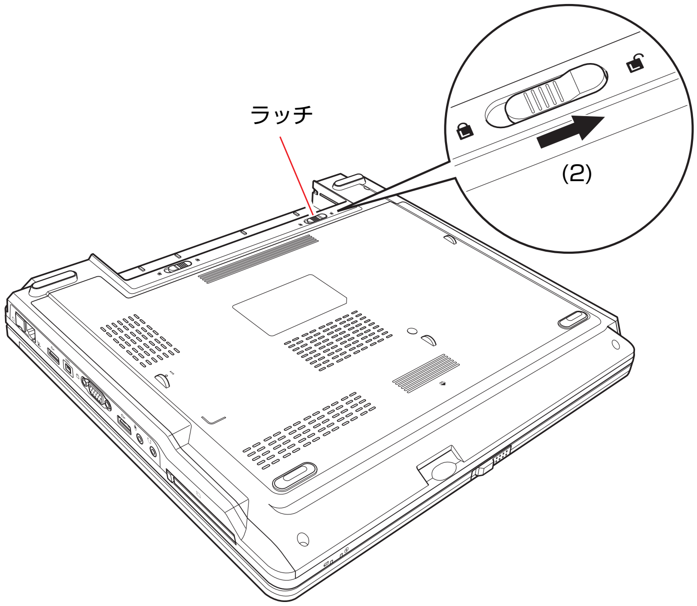


バッテリパックを取り付ける

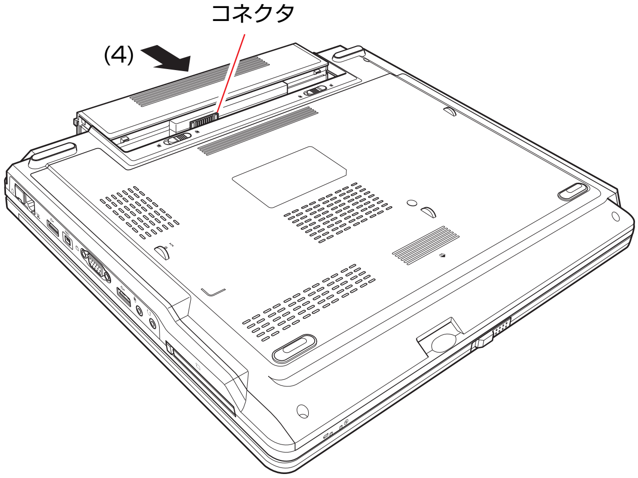
2　バッテリパックを取り付けます。

(1) 本機の底面部を上にして置きます。

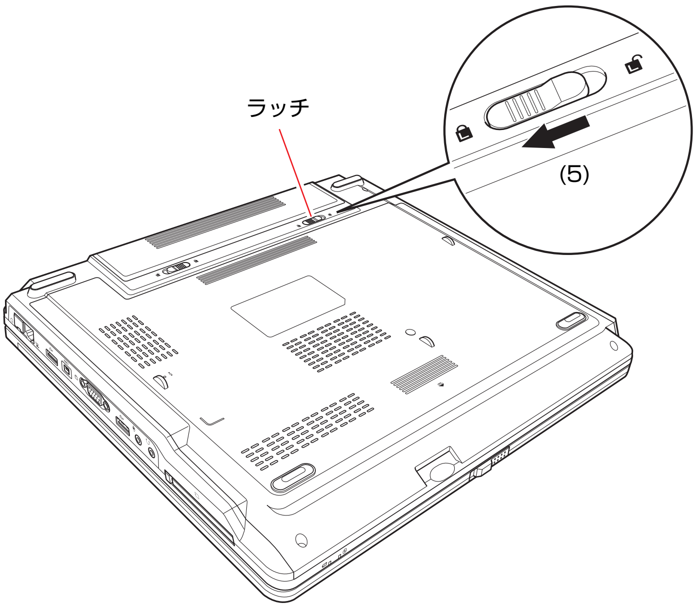
(2) 底面右側のラッチをロック解除位置（🔓）までスライドさせます。



(3) 下図のとおりバッテリパックを本機にあわせます。
(4) バッテリパックを本体の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。
バッテリパックが固定されます。



(5) 底面右側のラッチをロック位置（ ）までスライドさせます。



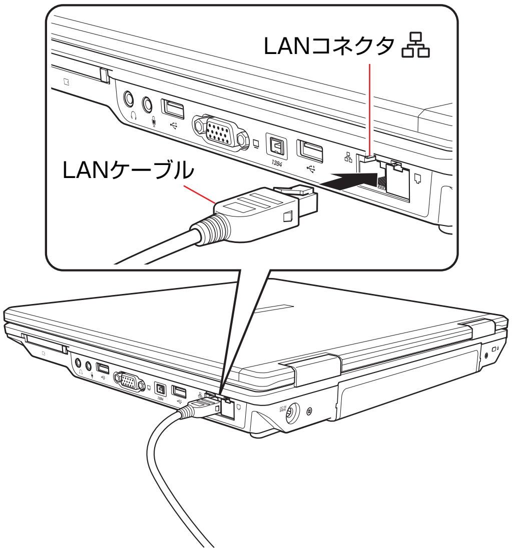
出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。本機をバッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

ネットワークへ接続する

3　ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、市販のLANケーブルでネットワークと接続します。

市販のLANケーブルをLANコネクタ（ 品 ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



ACアダプタを接続する

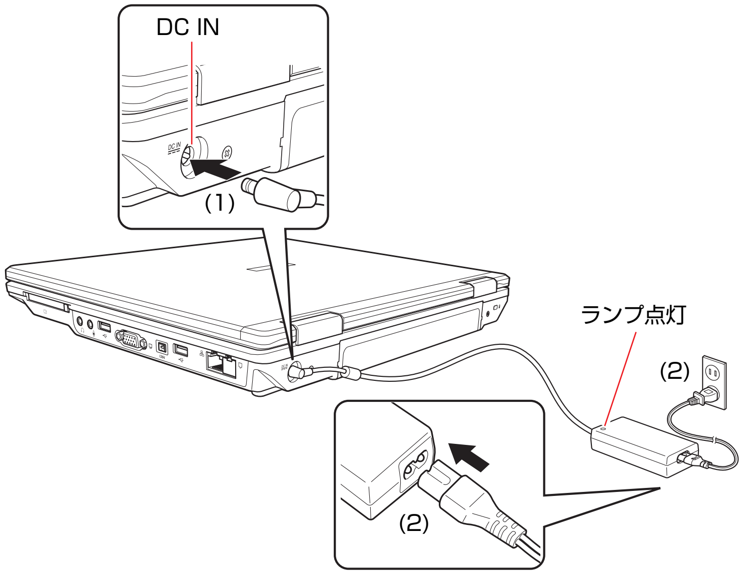
本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

4 **ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。**

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ（DC IN）に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

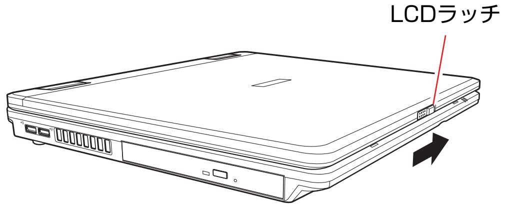
(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

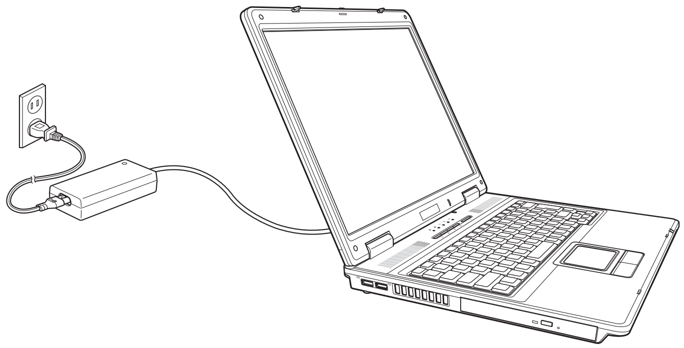


LCDユニットを開ける

5　前面のLCDラッチを右側にスライドさせて、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。





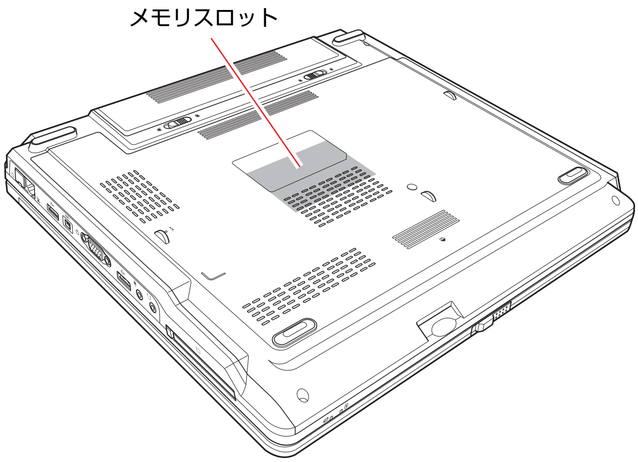
これでコンピュータの設置は完了です。

システムの拡張

アップグレードサービスや本機に接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機内部では、メモリモジュール（SODIMM、以降メモリ）を増設・交換して、機能を拡張することができます。



メモリスロット

本機には、メモリスロットが底面に2本用意されています。最大2GBのメモリを搭載できます。

p.23 「メモリの装着」

制限

本機は、メモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービス

当社ではコンピュータ本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ　　　　　　：増設・交換
- 内蔵HDD　　　　　：交換
- 光ディスクドライブ：交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、取り付け方法について説明します。

メモリの仕様

本機底面には、メモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより最大2GBまで拡張できます。
本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-4200 SODIMM（DDR2-533 SDRAM使用）
- メモリ容量　256MB、512MB、1024MB
- Non ECC
- 200ピン
- CL＝5

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。
ホームページのアドレスは次のとおりです。

http://epsondirect.jp/

▶作業時の注意

メモリの増設、交換をする場合は、次の点に注意してください。

警告

- メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜き、本機からバッテリを取り外してください。感電や火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。

注意

- メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

制限

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設・交換

メモリの増設・交換の手順は次のとおりです。

メモリの取り付け

1 メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、カードを取り外します。

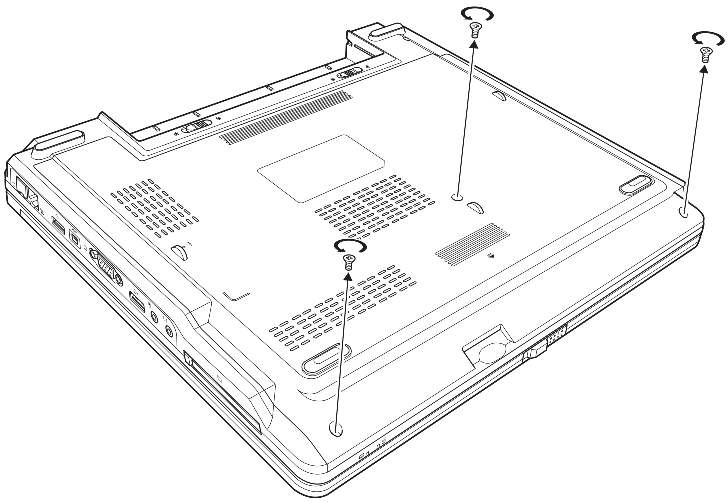
2 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。

コンピュータ内部が冷えるまで、10分以上放置してください。

3 コンピュータに接続しているケーブル類（ACアダプタなど）を、すべて外します。

4 本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。

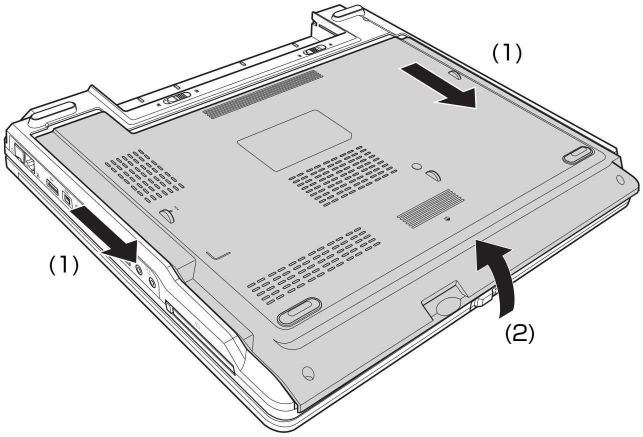
5 底面のネジ（3本）を外します。



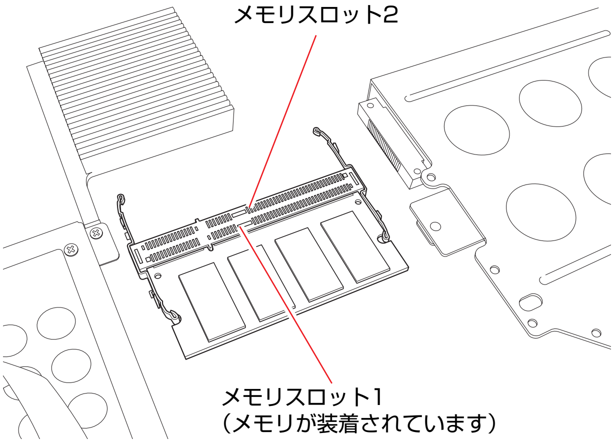
6 底面のカバーを取り外します。

(1) 底面のカバーを本体前面側に5mmほどスライドさせます。

(2) 底面のカバーを上に持ち上げ、外します。



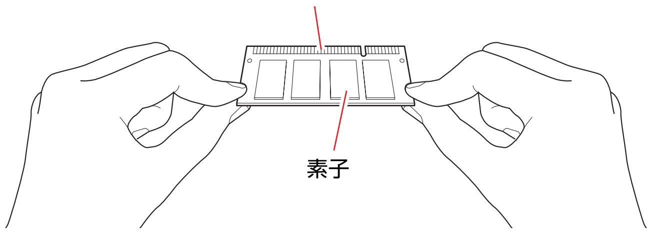
7 メモリスロットの位置を確認します。



ここでは、メモリスロット2にメモリを取り付ける手順を記載します。
メモリスロット1でも、手順は同じです。

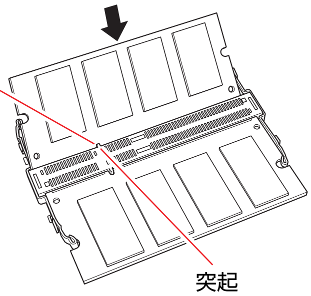
8 増設するメモリを静電気防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。



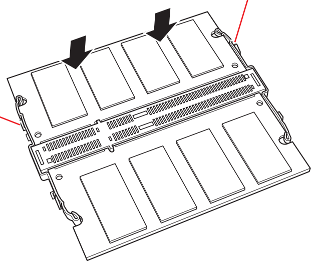
9 **メモリを、メモリスロット2に差し込みます。**

メモリの切り欠きをメモリスロットの突起にあわせ、メモリを約30度の角度でメモリスロットに差し込みます。



10 **メモリを静かに倒します。**

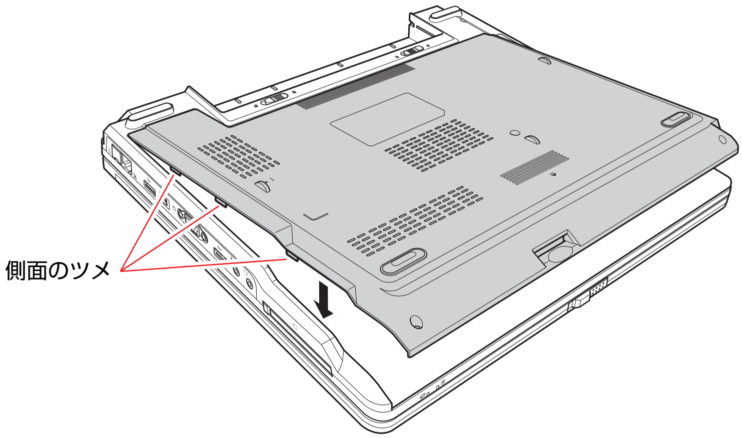
「カチッ」と音がしてメモリが両側の固定タブに固定されます。



11 **底面のカバーを取り付けます。**

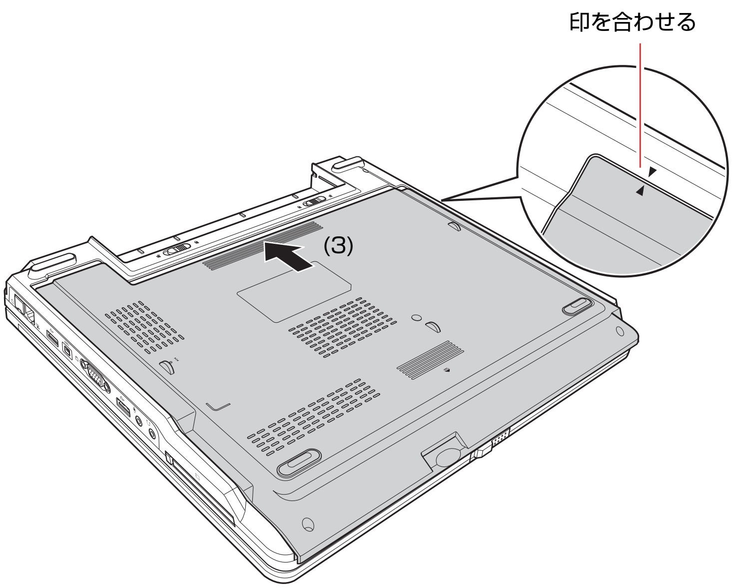
(1) 底面カバーのバッテリ側のツメ（５ヵ所）を本体のツメ穴に合わせます。

(2) 底面カバーの左右のツメと本体のツメ穴に合わせます。



(3) 底面のカバーのバッテリ側のツメを、本体のツメ穴に押し込むようにして、カバーをスライドさせます。

底面のカバー右側にある印と本体の印を合わせてください。



12 **ネジ（3本）で固定します。**

13 **本機の底面を下にして置きます。**

14　**コンピュータを使用できるように、取り外したバッテリと、ケーブル類をもとに戻します。**

15　**手順1で取り外したダミーカードをメモリカードスロットに挿入します。**

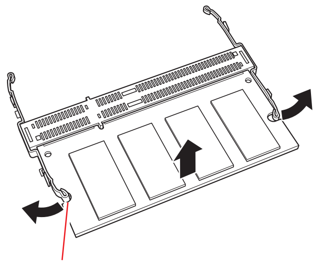
続けて p.30 「メモリの増設・交換後の作業」を行います。

メモリの取り外し

メモリの取り外しは、 p.25 「メモリの取り付け」の手順8～10を次の手順に読み替えて行ってください。

1　**メモリを両側で固定している固定タブを外側に広げます。**

メモリが起き上がります。



2　**起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。**

取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

1 コンピュータの電源を入れたら、F2 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

p.33 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2 「Main」メニュー画面－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。

総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付けなおしてください。

参考

総メモリ容量の表示

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メインメモリからビデオメモリを引いた数値が表示されます。
ビデオメモリの容量は、メインメモリの搭載容量によって変わります。メインメモリの搭載容量に対するビデオメモリの容量は次のとおりです。

メインメモリ	ビデオメモリ
256MB	32MB
512MB	64MB
1024MB	128MB
2048MB	128MB

BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Linux が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップグレードは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命
BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタ、およびバッテリからの電源供給が全くない場合、寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。
  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.48 「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- 初期値や前回保存した設定値に戻す。
  p.37 「設定値を元に戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

▶BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの［F2］の位置を確認してください。手順2では、すばやく［F2］を押す必要があります。

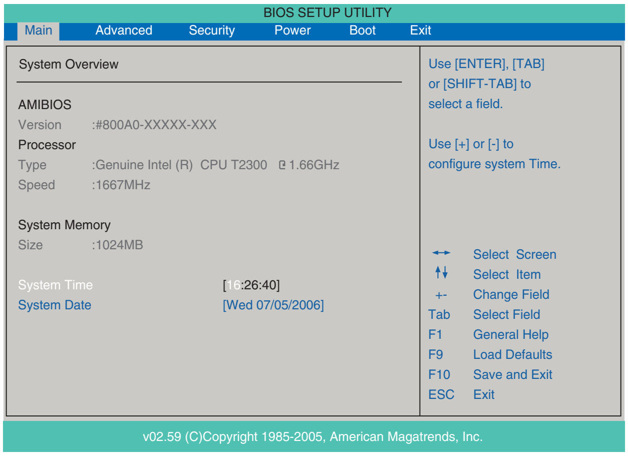
1　本機の電源を入れます。

すでにLinuxが起動している場合は再起動します。

2　本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの［F2］を押します。

Linuxが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3　「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ（イメージ）

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、本機の電源を入れたときに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら［F2］を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

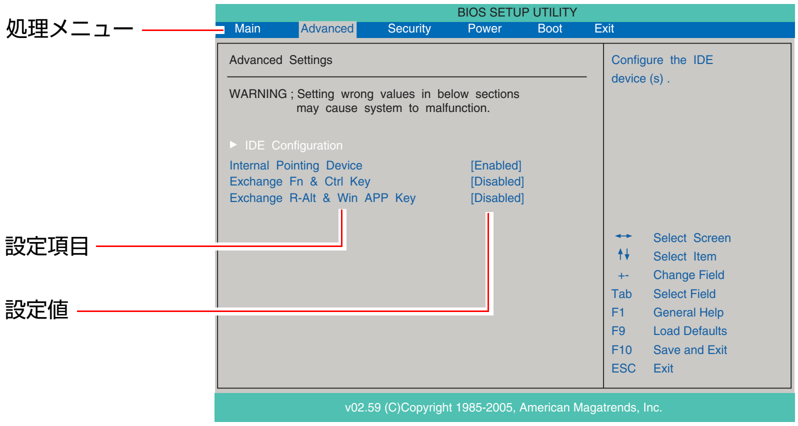
☞ p.41 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



＜メニュー画面＞

ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は p.42「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

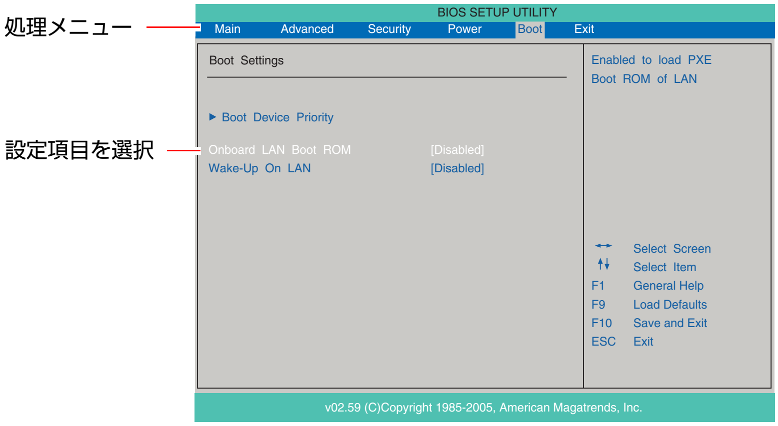
画面の操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法は、次のとおりです。

1　処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

【→】【←】でメニュー間を移動します。

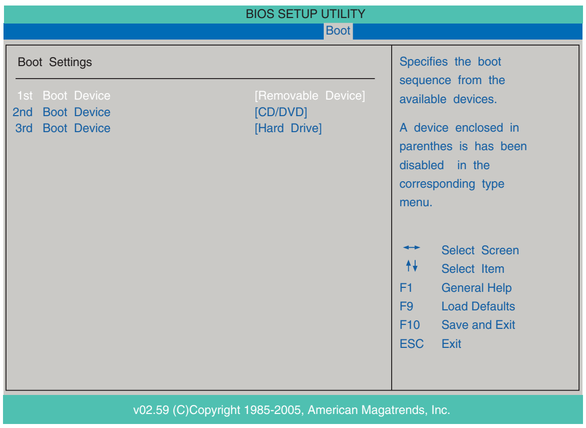
【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。



<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、【↵】を押すとサブメニュー画面が表示されます。

【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。



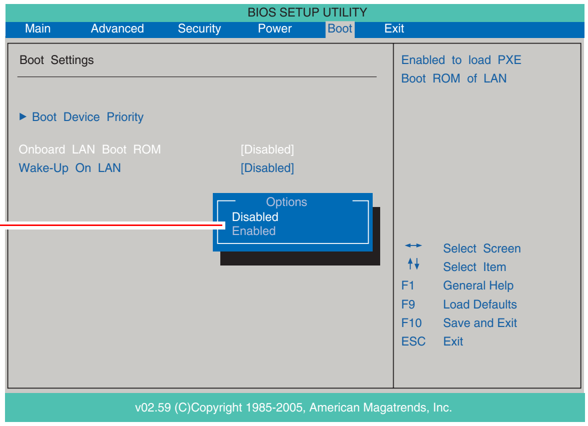
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには【Esc】を押します。

2 **設定値を変更します。**

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し、[↵]で決定します。

選択ウィンドウ



キー操作一覧

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
＋[-]（[P せ]） ＋[+]（[+ れ]）	項目の値を変更します。
[↵]	● メニュー画面中の▶の付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[Esc]	● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[F7]	変更した設定値を前回保存した設定値に変更します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に変更します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

▶設定値を元に戻すには

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に戻します。

1 **F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Load Optimal Defaults ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 **F7 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Discard Changes ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**

▶Passwordの設定

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。Linux起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。
パスワードの設定は、「Security」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。

p.44 「Securityメニュー画面」

パスワードの種類

パスワードには、次の2種類があります。

- **Supervisor Password（管理者パスワード）**
  コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログインした場合、BIOSのすべての項目を変更することができます。
- **User Password（ユーザーパスワード）**
  そのほかのユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードにBIOSにログインした際の制限を設定することができます。

アクセス制限の設定

管理者パスワードでBIOSにログインすると、アクセス制限の種類やHDDへのアクセス制限を設定することができます。

アクセス制限の種類

アクセス制限には次の2種類があります。

- **Setup**
  BIOSへのアクセスを制限します。BIOS起動時にパスワード入力が要求されます。
- **Always**
  BIOS、Linuxへのアクセスを制限します。BIOS起動時とLinux起動時にパスワード入力が要求されます。
  アクセス制限の選択は、p.44 「Securityメニュー画面」－「Password Check」で行います。

HDDへのアクセス制限

管理者パスワードを設定すると、HDDへのアクセス制限を設定することができます。HDDへのアクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。HDDにアクセスするには、BIOS起動時とLinux起動時からの復帰時にパスワードの入力が必要です。
HDDへのアクセス制限の設定は、p.44 「Securityメニュー画面」－「Hard Disk Protection」で行います。

制限

パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。
登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

パスワード入力時の注意

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更

管理者パスワードおよびユーザーパスワードを設定すると、BIOS Setupユーティリティや Linux起動時にパスワード入力を要求します。

制限

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはLinuxの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。
管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Enter New Password
```

2 パスワードを入力し、↵ を押します。

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、↵ を押します。

```
Confirm New Password
```

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で ↵ を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやり直してください。

4 **「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で ↵ を押します。**

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

管理者パスワードの削除

管理者パスワードを削除する場合は、BIOS Setupユーティリティ起動時に管理者パスワードを入力してください。

1 **「Change Supervisor Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Enter New Password

2 **何も入力せずに ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Password uninstalled.
[Ok]

3 **「Ok」が選択された状態で ↵ を押します。**

「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されました。

管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも削除されます。

ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードのみの削除方法は次のとおりです。

1 **「Clear User Password」を選択して、↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Clear User Password?	
[Ok]	[Cancel]

2 **[Ok] を選択して、↵ を押します。**

「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。

これで、ユーザーパスワードが削除されました。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 Esc を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- **Mainメニュー画面**
  日付、時間などの設定を行います。
- **Advancedメニュー画面**
  IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
- **Securityメニュー画面**
  パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。
- **Powerメニュー画面**
  バッテリのリフレッシュを行います。
- **Bootメニュー画面**
  システムを起動するドライブの設定を行います。
- **Exitメニュー画面**
  BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

AMI BIOS	*Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
Processor	*Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	*Size	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日月/日/年）の順で表示されています。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master/ Secondary IDE Master	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
	Type	ドライブの仕様を設定します。 初期値［Auto］のまま使用します。
	LBA / Large Mode	LBA（Logical Block Addressing）を使用するかどうかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto　: LBAを使用します。
	Block（Multi-Sector Transfer）	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto　: BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	ドライブの転送モード（PIO）を設定します。 Auto　: BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。
	DMA Mode	ドライブのDMA転送モードを設定します。 Auto : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0 / SWDMA1 / SWDMA2 / MWDMA0 / MWDMA1 / MWDMA2 / UDMA0 / UDMA1 / UDMA2 / UDMA3 / UDMA4 / UDMA5
	S.M.A.R.T	初期値［Auto］のまま使用します。
	32Bit Data Transfer	初期値［Enabled］のまま使用します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled : タッチパッドを使用します。 Disabled : タッチパッドを使用しません。

Exchange Fn & Ctrl Key	キーボードの左下側にある　　と、その隣にある[Ctrl]の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Enabled ：　　と[Ctrl]の機能を入れ替えます。 Disabled：　　と[Ctrl]の機能を入れ替えません。
Exchange R-Alt & Win APP Key	キーボードの右下側にある[Alt]と、その隣にある[アプリケーションキー]の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Enabled ：[Alt]と[アプリケーションキー]の機能を入れ替えます。 Disabled：[Alt]と[アプリケーションキー]の機能を入れ替えません。

▶Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.38 「Passwordの設定」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

*Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed：パスワードが設定されていません。 Installed　　：パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。BIOS SetupユーティリティやLinux起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーがBIOS Setupユーティリティにアクセスすることを4段階で制限します。 No Access ：BIOS Setupユーティリティを起動することができません。 View Only ：BIOS Setupユーティリティを閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited　：BIOS Setupユーティリティを閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access：管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password	ユーザーパスワードを削除します。 「User Password」（ユーザーパスワード）を設定すると表示されます。 [↵]を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。

項目		説明
Password Check		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup　:BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 Always:BIOS SetupユーティリティやLinux起動時にパスワード入力を要求します。
Boot Sector Virus Protection		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。 Disabled : 書き込みを許可します。 Enabled : 書き込みを禁止します。
TPM Security ※TPMはLinuxでは動作しません。		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。セキュリティチップ（TPM）を使用するかどうかを設定します。 Disabled : セキュリティチップを使用しません。 Enabled : セキュリティチップを使用します。
TPM Security Clear ※TPMはLinuxでは動作しません。		「TPM Security」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップ（TPM）の設定を初期化（消去）します。 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップの初期化は、充分に注意し、お客様の責任において行ってください。 ↵ を押すと初期化確認ウィンドウが表示されます。
I/O Interface Security データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。 「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると設定可能になります。	AUDIO	サウンド機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : サウンド機能の使用を可能にします。 LOCKED : サウンド機能の使用を不可にします。
	LAN	ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED : LAN 機能の使用を不可にします。
	Optical Disk Drive	光ディスクドライブ機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : 光ディスクドライブ機能の使用を可能にします。 LOCKED : 光ディスクドライブ機能の使用を不可にします。
	PC Card/SD/MS/MMC/IEEE1394 ※PCカード/メモリカードはLinuxでは動作しません。	PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にします。 LOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394 機能の使用を不可にします。
	USB/Wireless LAN ※無線LANはLinuxでは動作しません。	USB 機能および無線LAN機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : USB機能および無線LAN機能の使用を可能にします。 LOCKED : USB機能および無線LAN機能の使用を不可にします。

Hard Disk Protection	「Supervisor Password」(管理者パスワード)を設定すると設定可能になります。HDDへのアクセス制限の設定をします。アクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。 HDDにアクセスするには、BIOS起動時にパスワードの入力が必要です。 Disabled :HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled :HDDへのアクセスを制限します。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、バッテリのリフレッシュを行います。
設定項目は、次のとおりです。

Start Battery Calibration (バッテリのリフレッシュの実行)	バッテリのリフレッシュを行う場合に実行します。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムを起動するドライブの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

Boot Device Priority システムを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Device」です。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「CD/DVD」です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Hard Drive」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面ー「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定すると表示されます。初期設定は「Network」です。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled :有効にします。
Wake-Up On LAN (LANからの起動設定)		電源切断時において、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。この機能は、Linuxを正常に終了し、ACアダプタを接続した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled :設定します。

起動するドライブとは

「Boot Device Priority」では、システムを起動するドライブの順番を設定しています。
コンピュータが、[1st Boot Device]、[2nd・・・] という順番でドライブを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。起動するドライブの順番は、サブメニューに表示されるドライブの順番を入れ替えることで変更することができます。
サブメニューに表示される項目は、次のとおりです（購入時のシステム構成により異なります）。

- ●Removable Device：オプションのUSB FDDなど
- ●CD/DVD：接続されている光ディスクドライブ
- ●Hard Drive：接続されているHDD
- ●Disabled：検出するドライブなどを割り付けないときに設定します

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。
設定項目は、次のとおりです。

Save Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOS Setupユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange Fn & Ctrl Key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win APP Key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
*User Access Level		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
*Password Check		Setup	Always	Setup	Always
*Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
*TPM Security		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
*I/O Interface Security	AUDIO	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Optical Disk Drive	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	PC Card/SD/MS/ MMC/IEEE1394	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB/Wireless LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
*Hard Disk Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

* 「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
	4th Boot Device				
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-Up On LAN		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタ、およびバッテリからの電源供給が全くない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

機能仕様一覧

CPU		インテルCore 2 Duoプロセッサ、Core DuoプロセッサまたはCeleron Mプロセッサ
BIOS		AMI BIOS
チップセット		ATI RC410ME+ATI SB450
セキュリティチップ		TPM 1.2（TPMはLinuxでは動作しません）
メモリ	メインメモリ	PC2-4200 SODIMM（DDR2-533 SDRAM）を使用して最大2048MBまで搭載可能
	ビデオメモリ	メインメモリより最大128MBを使用
ビデオ	コントローラ	ATI RADEON XPRESS 200M（RC410 ME）
画面表示	液晶タイプ	15型XGA カラー液晶 1024×768ピクセル True Color （32ビット）*1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ピクセル、True Color （32ビット）
サウンドコントローラ		ハイ・デフィニション・オーディオ対応Realtek製
キーボード		日本語対応87キー、インスタントキー 4個 （インスタントキーはLinuxでは動作しません）
ポインティングデバイス		タッチパッド
記憶装置	HDD	1台内蔵（2.5型IDE HDD）
	光ディスクドライブ	1台内蔵（種類は購入時の選択による）
インタフェース	USB	4（USB2.0対応）
	IEEE1394	1（4ピン）
	LAN	1（RJ-45 100Base-TX/10Base-T自動認識）
	サウンド	ステレオスピーカ、マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1
	VGA	1（アナログRGB　ミニD-SUB　15 ピン）
PCカードスロット		1　TypeII　PC Card Standard準拠 （PCカードスロットはLinuxでは動作しません）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応 （メモリカードスロットはLinuxでは動作しません）
カレンダ時計		内蔵 （内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10%*2、1.5A （50/60Hz）、出力19V、3.42A、65W　重量約320g（含電源コード）
	リチウムイオンバッテリパック	容量 2400mAh　Li-ion 14.8V　動作時間 約1.4時間（Core 2 Duo搭載時）、約1.6時間（Core Duo搭載時）、約1.8時間（Celeron M搭載時）JEITA*3測定方法Ver1.0
		容量 8800mAh　Li-ion 14.8V　動作時間 約4.2時間（Core 2 Duo搭載時）、約4.7時間（Core Duo搭載時）、約5.3時間（Celeron M搭載時）JEITA*3測定方法Ver1.0
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法		本体：約332（幅）× 287（奥行）× 35.6（高さ）mm （突起部を除く、リチウムイオンバッテリパック2400mAh装着時） 約332（幅）× 323（奥行）× 35.6（高さ）mm （突起部を除く、リチウムイオンバッテリパック8800mAh装着時）
質量		本体：約3.00kg（リチウムイオンバッテリパック2400mAh装着時） 約3.45kg（リチウムイオンバッテリパック8800mAh装着時）
消費電力		76.5W（最大）/ 2.0W（電源オフ時）

*1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
*2 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
*3 システム構成や使用環境により異なります。

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。
＊ LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて

PC リサイクル

PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。
http://www.epson.jp/ecology/

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を越えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Celeron、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

PS/2はInternational Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

epsondirect.jp